日本大学薬学科

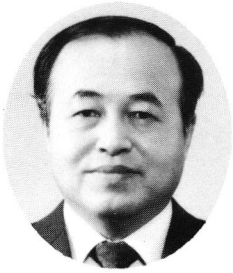
桜薬会会報

8

目次

□会長挨拶／高中正…2□教室主任に就任して／桐澤誠…3□教室だより…4□薬学科卒業生の就職に関して／中村健…12□山本先生に感謝する会…13□伝言板／里見政吉先生に感謝する会／会員名簿の案内…15□駿河台コミュニティー／第3回生同窓会の開催について…16□八期生20周年記念同窓会…16□第18期生卒業10年記念同窓会…17衛生裁判化学教室および裁判化学研究会同窓会…18□秋田県同窓会（秋桜会）について…18□日本大学薬学科杉並区在住同窓生の集い…19□事務局だより／昭和58年度桜薬会総会…20□キャンパスあんない／習志野校舎…22□会費納入者名簿…23□御案内／昭和59年度入試…24

会長挨拶



会長　　高仲　正

皆様、あけましておめでとうございます。

新しい年の始めに当たり、皆様にはそれぞれ夢と希望に胸をはずませておられることと思います。任期も数ヶ月を残すのみとなり、歳月の流れの早さを痛感しております。今期は桜薬会の通信事務及び会員名簿の整理・管理面の省力化、新会員名簿の発行、地域・職域支部の確立等会員相互の一層の緊密化ならびに、薬学部昇格へ向けて外部より寄与しうる体制の確立などを目標に活動を続けてまいりましたが、会員皆様の多大の御支援及び各役員並びに事務局の方々の御協力により着実な成果をあげつゝあります事を心から御礼申し上げます。

桜薬会も昭和58年4月には182名の正会員を迎え総会員数6,484名の組織となりましたが、会員数の増加に伴う事務量の増大に対処するため、コンピューターシステムNUPS-1を導入し、各教室の先生の多大な御協力により、会員録のインプットの第一段階を終了しました。これを用いて、工科校友会からの援助を基に昭和57年版会員名簿を作製し、過日御手許にお届けした次第です。なお、今後は毎年の予算に名簿発行準備費を計上し、出来れば3年毎に新名簿を発行する計画を立てゝおります。また、コンピューターを用いて会員の皆様に種々の情報を迅速に御知らせ出来る態勢を整えつゝありますので、詳細は事務局へ問い合せ下さい。なお、有効な会員録を維持するためには、住所、勤務先等変更がございましたら、必ず卒論教室又は事務局に御連絡下さるよう御願いします。

地域・職域支部については昭和56・57年度に神奈川県支部、熊本県支部、広島県支部、茨城県支部、大阪府支部、愛知県支部がそれぞれ結成され、58年度には本会報に載せましたように秋田県支部、東京都杉並区支部が発足し、各地域における会員相互の結びつきを強めており、現在、地域支部、職域支部などが活動を続けております。今後は本部・支部間の連係をより強めて行きたいと考えております。

薬学部への昇格に関しましては、桜薬会会報4号で桐沢教授がその重要性を詳細にのべられておられますが、昨今、日本薬剤師会では高木会長を中心に薬学教育6年制が審議されており、それによりますと、学部4年、修士2年計6年という案が出ているようです。これが実現すると教科内容はともかく、修士過程を持たない大学はこれに対応をせまられることが予測されます。現在修士課程のない薬学系大学は46校中本学を含めて数校にすぎません。この面から考えても、薬学部昇格と移転により必要な面積の確保が必要です。桐沢教授をはじめとする薬学科諸先生の御努力並びに加藤理工学部長や他学科の先生の御理解により、部昇格の話が着々と進んでいる事を承り、桜薬会としても6月24日に私と副会長とが一緒に日本大学柴田理事長、川崎常務理事にお会いし、部昇格に関する大学の御意向をうかゞうと共に、薬学界における桜薬会員の現状をお話ししました。両先生共薬学教育における現状を充分に理解しておられ、大学院の設置、学部昇格について60年代前半を目途に考えているとのお話をうかゞいました。問題の1つは資金面にあるようですが、それと共に進歩、発展の著るしい医療、研究に即応し得る薬学教育を如何に確立して行くかにあると思います。欧州諸国に比べ人口10万人当りの医師数は½、薬剤師数は2倍といわれる我国において、桜薬会員の充分な活躍と発展を考える時、基本となる薬学教育は時代の要求に答えるだけではなく、充分に討議された将来計画に基づき、将来を先取りした形で進めて行く必要があると考えます。この点に関しましても会員皆様のより一層の御協力を切望いたします。

（国立衛生試験所薬理部長）

教室主任に就任して

薬学科主任教授
桐澤　誠

新教室主任挨拶を書けと編集委員よりお申し付けがあり、お断りしたのですが、お許しが出ませんので、思いつくことを申し述べて、ご挨拶といたします。

一口で申せば、学科の運営を円滑にするために設けられた雑用係、世話役が教室主任であると言えましょう。更に細かく言えば、第一に、恒常的な業務として、学部関係の業務、雑用の下請けがあります。その雑用は広範且つ多量でありまして、現実に一番負担のかかる部分でありますが、学部、学科が運営されて行く為に必要な仕事ではあります。第二に、科内スタッフが自らの総意によって、科の運営を進めて行く上での世話役をつとめること。第三に、学部執行部の方針と現実の運営とを、科内スタッフに周知徹底することであり、また学部に具申すべき科の意見がある時には、学部執行部に具申し、その実現を計ることなどであろうと考えております。

第二の低務について、スタッフの中には、教室主任は自らの哲学によって、科の管理運営を行なうべきであり、その為には二年の任期では不十分で、最低四年は任期を継続すべきであるという考えの方もおいでになります。私はこの考え方には反対であります。意見があるならば、その意見を開陳し、スタッフの合意を得て実施に移せば良いのであって、教室主任であるか、ないかとは全く関係のないことと思います。また私には一人丈の哲学（？）から出た方策が、スタッフの十分な討議によって導かれる結論と違う場合、皆んなで出した結論より正しいとは考えられませんし、当然のことですが、教室主任は自分丈の意見で科の運営をすべきではないと考えます。また会議に長い時間を費やすのは勿体ないという意見もあります。適当に多数決で決めて了って良いこともありますが、基本的な重要問題については、出来る丈広い範囲の意見を聞き、十分な時間をかけて討議することが必要と考えております。十人十色と申しますように、実際問題としては、科内全員の意見が一致することは、なかなか難しいことがありますが、先にも述べた通り、科のスタッフが十分に討議し合って出す結論はベターなものと考えます。例え自分の意見と異る結論であっても、科としての結論が出た時には、今迄もそうであったように、今後共、スタッフの皆様には、全面的に協力して下さるようお願いいたします。

次に話題を変えて、何回かふれさせていただいている薬学部への昇格問題でありますが、我が薬学科は設置以来、既に三十一年を経過しております。薬学科の現状を端的に申せば、誠に憂うべき状態と申すべきかも知れません。設置当時に比して、地盤沈下を続けていると退職した某先生が言われます。設置以来、今日に至る迄の歴史があって、現状がある訳で、退職された先生方も含めて、勤続年限の長い順、高年齢の順にその責任は重いと考えております。おこがましいかも知れませんが、私も勿論その一員と反省いたしております。我が薬学科の勝れた特質を失わぬように、現状を打破し、将来の展望を持つ最良の道は、薬学部への昇格であろうと、大多数の先生方が考えておいでであり、私もそう確信しております。

最近の安定成長の経済状況の下で、更に学部独立採算制の巨大な日本大学の組織の中で、科自身の資金を持たずに新学部を設置するには、理工学部、大学本部、他学部の理解と助力を得るしか方法はありません。薬学部への昇格は、薬学科設置当時からの懸案でありますが、今回の昇格への動きが出ましてからでも、既に７、８年を経過しております。何時学部になるのかと、しびれを切らしておられる校友もおいでのことと思います。私は自身の不甲斐なさを身に滲みて感じております。しかし加藤理工学部長を始めとする学部執行部各位のご努力によって、大学本部の理解も深まり、遅々たる歩みではありま

すが、学部設置の実現に向って着実に前進していることも事実であります。鈴木総長、柴田理事長、加藤理工学部長の現体制の中に、少なくとも学部昇格決定の線迄は進めていただきたいと希望しております。教室主任の第二の任務として挙げたことに関して先に述べたような考え方の先生が沢山おられることも事実でありますから、薬学科の昇格への意志に変りがないことを、大学関係者に認識して貰いやすくするためには、今回教室主任は交替しない方が良いと考え、教室主任は任期毎に交替し、なるべく多数のスタッフが教室主任を経験する方が良いという私本来の持論に反し乍らも、選挙結果に従い、引き続き教室主任をお引き受けした次第であります。私に投票して下さった先生方も、同じように考えられたものと推察いたしております。引き続き、科内スタッフと共に、出来る限り大学本部、理工学部、他学部のご理解を得、ご助力をお願いして、薬学部の設置を実現したいと覚悟いたしております。

校友諸兄姉には事情をご理解いただき、よろしく御助言、御助力下さいますようお願い申し上げます。

※　※　※　※

教室だより

薬剤学教室

先づ最初に昭和58年4月より、前関東逓信病院薬剤科部長　斉藤太郎先生を薬学科教授としてお迎えし、薬剤学教室を主宰して頂くことになりました事を御報告いたします。先生を御存知の方は多いことと思いますが、ご経歴を招介させて頂きます。

斉藤先生は1918年アメリカ、カリフォルニアにお生まれになり、1942年東大医学部薬学科を御卒業、山口大学医学部薬理学助教授兼付属病院薬剤部長、群馬大学付属病院薬剤部長、東大薬学部講師、関東逓信病院薬剤科部長、共立薬科大学教授(兼任)、星薬科大学講師を経て現在に至っておられます。また

斉藤太郎教授

その間、厚生省新薬開発推進会議委員、厚生省中央薬事審議会医薬品安全対策特別部会委員、厚生省副作用調査委員、日本医師会医薬品長期対策委員会委員、日本薬学会理事、日本薬剤師副会長、東京都病院薬剤師会会長などの要職を歴任されました。これらの功労に対し昭和58年11月20日薬事功労者として厚生大臣の表彰をお受けになりました。主要著編書としては「患者へのクスリの注意」、「クリニカルファーマシー1444の問題集」、「臨床薬学講座」(地人書館)、「副作用ハンドブック」(薬事日報社)、「薬剤学」(南山堂)、「日本医薬品集」(共編、薬業時報社)など多くの書をあらわしておられます。学位論文は「フグ毒の化学と薬理学」で医学博士を授与されておられます。ご趣味はバスケットボール、「酒はほんの少し」とご本人はおっしゃっておられますが、焼酎党でかなりの酒豪とおみうけしました。以上簡単ではありますがご招介いたしました。従って58年度より教室の構成員は斉藤太郎教授、岡村信助教授、後藤博子講師、伴野和夫助手、原口真奈美副手、院生扱い給費生馬島潔郷君の後任に生薬学教室出身(昭和58年3月卒業)の山田安基子さんの6名で教育および研究に従事しております。

次に今年度の卒研生ですが、5月に16名(男子6名、女子10名)が配属されました。皆んな素直な諸君達です。7月24日から1泊で日大軽井沢研修寮に研修旅行に出発いたしました。幸い天候に恵まれ、親睦に又秋に行われた恒例の卒研対抗ソフトボール

大会のための特訓など有意義な旅行を過しました。その甲斐あって大会では見事に優勝の栄冠をえました。この勢いで今後の難関を無事に突破して行く事を念願しております。最後に教室の研究成果について記しますと、(発表)；日本薬学会第103年会(4月6日)「アスピリン結晶の加水分解におよぼす添加剤の影響」。第27回日大理工学部学術講演会（11月12日)：「アスピリンのメカノケミカル効果について」、「アスコルビン酸の固体状態における分解」。以上御報告を終ります。

末筆ながら会員諸氏の益々の御活躍と御多幸を祈念申し上げます。(岡村記)

衛生化学教室

前号が発行されてから早くも一年たちました。昭和58年度の衛生化学教室員は、57年度に研究生として残っておられた伊藤純君（57年卒）が4月より都立高校に勤務されたので、澤村先生と長谷川先生、立川さんと池上君と櫻井の5名です。

今回は、ここ数年間卒論テーマとしてとりあげている内容を少々ですが御紹介しようと思います。テーマは大きく3つに分けられます。一つは塩素と生体物質との反応機構として、アミノ酸に次亜塩素酸を作用した時の反応生成物を検索し、その生成過程を検討するというテーマ。現在までのところ、グリシンからシアンの生成する過程を明らかにすることができました。人間の体内でも、白血球が細菌を殺す段階で活性塩素が生成するということが報告されていますので、生体内での反応にも興味をもって臨んでいるところです。次に、現在では新聞でも度々登場している変異原性試験に関するテーマについてですが、当教室では、水道水の原水に多く含まれているフェノール系の有機物質（フミン質と総称されています）を塩素処理したときに生成する変異原物質を追跡しています。残るもう一つのテーマは「有機塩素化合物の生体内運命について」で、家庭内のあらゆる所に使用されている化学物質の安全性を検討しています。この実験では主にラットを用いて体内分布、吸収、排泄等の検討と、肝臓の薬物代謝酵素等に与える影響を調べています。また、それらの化学物質が2世代にわたって与える影響についても調べています。

次に澤村先生に関する話題を少々。「趣味は、琴古流の尺八。12年間師匠について習っており、今や師範の腕前。また、駿河台周辺をこよなく愛し、江戸時代の再版の地図や写真を収集し、駿河台の地理と歴史を捜索。その成果を、ミニコミ誌に発表したりしている」（ドラッグマガジン10月号より）このミニコミ誌とは『本の街』という月刊誌で、先生は、「坂の上と下の物語」と題して、第一話「サイカチの木」第二話「江戸城を臨む二本の道」第三話「猿楽町に神田上水の流れをさぐる」第四話「駿河台小松宮邸のこと」を連載されました。

最後の話題になりましたが、立川さんは9月26日に無事女児を出産なさり、公私ともに奮闘されております。末筆ですが、会員の皆様の御健康とより一層の御活躍をお祈りしております。

なお、カッパ会は澤村先生の御在職30周年を記念して、2月4日、日生会館（幹事第25回生）を予定しております。多数の御出席をお待ちしております。

(櫻井記)

経営学教室

経営学教室の近況を先輩諸氏にお知らせします。

他の薬科大学に類例をみない伝統ある経営学教室をより高く発展させるべく、後輩学生も終日頑張っている姿をはじめに紹介します。

本年、当教室を志望し、選ばれて入室した学生は11名です。いずれも向学心に燃えたすばらしい学生達です。先輩諸氏の築いた伝統を守るべく、学生時代最後のエネルギーをぶつけて卒研に打ちこんでいます。多くの学生は、夏休み中から、すでに教室に通いつづけ、今でも夜遅くまで研究に当るなどの張切りようです。

卒研のテーマは、今年の卒研生の就職希望が、病院等調剤業務が多かった事を配慮し、主テーマを調剤内容や調剤業務を経済的観点から多角的に解析す

る多くの研究を行っています。そのため、当教室に備えられた2台のパソコンは、終日リズミカルな音をたて活躍しています。

そのほか、薬局における調剤業務を行為別に所要時間を実測し、調剤業務の適正報酬の有り方についての研究も行っています。

なお、昨年度は、人口高令化現象と医薬品産業の動向を種々の統計資料から解析するなど、社会が当面している多くの問題を正面から取組む研究を行いました。

なお、教室関係についても、本年は4月より伊藤由美君（58年卒　製造教室出身）が当教室の助手として採用され、特にコンピュータの使用と解析について学生への指導に当ってくれています。

次に、恩師中村泉美先生の近況を紹介いたします。御承知の方も多いと存じますが、先生は目下、日本医歯薬研修協会において、昔そのままの情熱をもって薬学生の指導に当られております。ここに紙上をかりて、先生の益々の御健勝と、併せて先輩各位の益々の御活躍を心から祈念して近況報告と致します。

（中村健記）

放射化学教室

桜薬会会員の皆様には御元気に御活躍のこととお慶び申し上げます。当教室員一同、全員元気でがんばっています。桜薬会会報第7号に掲載した以降のことについて当教室の動きを概略のべてみます。

昭和57年度卒業生は12名全員が卒業し、薬剤関係業務（新谷真紀、矢嶋正子）、会社関係（井上泰三、伊藤聡子、中川幸雄、広田育子、柳沢麻理）、学校関係（古川揚子）、公務員（石森公雄、市橋淳）そして自営（網仲信男、福原輝久）の各分野に就職も決まり社会への第一歩を踏み出して行きました。これに比して昭和58年春の国試の合格者は8名で、学科の合格率の低下に寄与してしまったようで残念に思います。

さて昭和58年度の卒論生が今年も例年通り5月のゴールデンウィーク明けに配属されました。当教室には女性7名（池田奈津江、榎本悦子、岡部良江、菊地早苗、道祖土靖恵、山崎菜緒美、渡辺千都子）と男性7名（板子佳正、佐藤順、関浩道、中町由生、浜島彰二、藤田守啓、若松利尚）で今年も例年通り女性上位のように思います。就職希望職種では薬剤関係7人、その他（会社が主）が7人で10月31日現在内定者は半数で薬剤関係は内定者はいません。心当りがありましたら教室まで連絡下さい。

昭和58年度の卒研旅行は7月24日～7月26日まで蓼科高原で行なわれました。ゼミ、テニス、コン

パ等充分に目的を果して帰京しました。今後の卒論におおいに役立つと思います。

卒論対抗ソフトボール大会は10月1日に習志野校舎グランドで行なわれ、薬物、製造に勝ちましたが、分析と引き分けて四位以下に終りました。

最後に昭和57年度当教室同窓会が昭和57年11月20日午後6時より8時まで銀座アスター御茶の水店で24名が参加して行なわれました。各自に近況報告をし、次回の幹事に菅野圭介君（52年卒）を決めて閉会しました（文中敬称略）

末筆ながら会員諸氏の一層の御発展をお祈り申し上げます。

生化学教室

桜薬会会員の皆様には各方面におかれまして御元気で御活躍のことと思います。今年は当教室内においていくつかトピックスもあり部屋の内容も一新されつつあります。

さて58年3月12日、かねてよりの皆様からの御希望に答えまして生化学教室出身者の初の同窓会が開

催されました。約80人の同窓生が57年に落成したばかりの日本大学会館に集い、旧交をあたためました。前生化学教授沢村良二先生にも御臨席いただき、また遠くは九州から駆けつけて下さった方もあり感激もひとしおでございました。こういう機会でなくてはなかなか得ることの出来ない同窓の縦の絆も一層強まり、会員相互の今後の協力と発展が大きく望まれる次第であります。これを機として同窓会役員も新たに決まり、定期的な総会の開催も予定される運びとなりました。

現在の教室は有吉歌子、高橋周七教授、小川真理子、小池勝也両助手および目崎純子の５名であります。高橋教授は日本大学理工学部主催海外語学研修の団長として７月25日から８月17日まで学生20名を引卒して渡米し、オレゴン州を本拠地として英会話レッスン、ホームステイなどを行い有益な成果を得て帰国されました。小池助手は４月より１年間の予定で理化学研究所農芸化学第１研究室小川智也氏（細胞表層の分岐糖鎖の合成で世界的な権威者であります）のもとに内地留学し研究に精進しております。昨年度副手（給費生）の中村不二彦氏（日大生化57年卒）は４月より理工学部習志野校舎の一般化学教室に転勤され、後任の目崎（同58年卒）が後期より始まりました生化学実習を小川助手の指導のもと頑張っております。

こゝ３、４年続けております好熱菌の研究は57年末より好熱菌と大腸菌との遺伝子組換え実験に向けて一段と飛躍しました。現在、組換え実験のために関係各省庁への申請が日本大学全体の問題として進行中で、認可と同時に研究室の改装、実験へと着手すべく張切って待っております。

本年度の卒研生は15名で（男子７名、女子８名）７月には研修旅行のため信州蓼科へ参り、静かな白樺湖でのコテージでの一日は愉しい思い出となりました。目下、卒業に向かって各自一生懸命に頑張っております。

終わりに会員皆様の一層の御健康と御発展をお祈り申し上げます。　（目崎記）

薬品分析学教室

桜薬会会員の皆様には、相変わりませずお元気で御活躍のことと推察申し上げます。

前会報（７号）や、御案内でも御通知致しましたが、山本純子先生が、58年３月をもちまして定年御退職をなされました。５月22日に催された「山本純子先生に感謝する会」には多数の会員の方々の御出席並びに御協力を頂き、教室員一同深く感謝し、山本先生の今後の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

山本先生御担当の薬品分析化学は、本年度より椛沢教授が講義をされています。教室員として他に内倉講師、２年目の関晶子、長張孝子両副手、給費生の松戸勝浩君（28期）が務めております。また、元素分析室では小林茂子が担当しております。

57年度卒業生17名（男性９名、女性８名）の就職状況は、製薬会社４名、薬局及び薬店４名、病院２名、病院研修１名、その他６名でありそれぞれの職場で頑張っております。

今年度の卒業研究生16名（男性９名、女性７名）が配属となり、７月25～27日に信州の松原湖畔へ研修旅行に行きました。１日目は、あいにくの雨でしたが、２日目は晴天に恵まれ、テニスやサイクリングに汗を流したり、ボート乗りや散策を楽しんだり夜は湖畔で花火大会と親睦を深めました。恒例の卒研教室対抗のソフトボール大会は10月８日習志野校舎で行なわれ、昨年同様３位に入賞しました。

卒業研究については、前年に引き続き、高速液体クロマトグラフィーによるペプチドの分析、同じく貯水槽補修用剤中の成分分析、向流クロマトグラフィーに関する研究、生体試料中の微量カテコールアミンの測定などで皆熱心に取り組んでいます。

次に薬品分析学教室同窓会ですが、会長に秋本稔氏（１期）に代り57年度より藤原充雄氏（７期）が就任、その他役員を改選し、同年11月20日銀座アスターお茶の水賓館に於て開催され、椛沢先生、山本先生を囲み歓談や歌でひとときを過ごしました。

今年度より当教室は椛沢先生を中心に教育、研究

に尚一層努力し、成果をあげてゆきたいと思いますので、皆様も御支援宜しくお願い致します。

最後に、皆様の御発展をお祈り申し上げます。

（小林記）

微生物学教室

桜薬会会員の皆様には各方面に御活躍のこととお慶び申し上げます。

前報でも一寸触れてありましたが、薬学科に“微生物学教室”が誕生したことをお知らせ致します。

近年来、微生物に関わる学問分野が非常な発展を遂げ、それに伴い本薬学科においても内外より微生物学教室の設置が望まれておりましたが、昨年（57年）4月、小山先生が二十数年間籍を置かれていた衛生化学教室より独立され、本教室の開設をみました。昨年一年間は衛生化学教室の一部屋をお借りして、学生実習、研究活動等を行っておりましたが、本年度（58年4月）より習志野校舎の薬化学教室と生薬学教室よりそれぞれ一部屋ずつ譲って戴いて、習志野校舎に教室を構えました。

本教室の設置にあたっては、桐澤主任教授をはじめ、薬学科教員全員の御理解と暖い御支援を載き、特に澤村教授以下、衛生化学教室員各位の全面的協力のもとに、順調に微生物学教室がスタート出来ましたことを感謝している次第です。

さて今年春には、はじめて当教室より8名の卒業生（男子3名、女子5名）を送り出しました。微生物学教室の一期生ということもあって、学生達はずいぶん張切っており、それぞれ病院薬剤師、製薬会社の営業マン、新聞記者として大いに頑張っているようです。また本年度は5名の卒業研究生（男子4名、女子1名）が配属となり、就職活動等で諸兄姉のお世話になることと思いますが、その節は御教導の程よろしくお願い致します。

現在教室員は、小山先生と井口の2名で、小山先生は学生実習に、また講義にと、習志野と駿河台を股にかけて目の廻る忙しさですが、元気で活躍しておられます。微生物学も諸兄姉の学ばれた頃とは違い、免疫、変異原、遺伝子組換えと次々に領域が拡がっており、やらなければならないことが山積しております。当教室は何しろ出来たてのホヤホヤであり、何事によらずこれからという状況で、仲々思うにまかせませんが、教育活動に、研究活動に、あせらず、一歩ずつ着実に諸先輩教室に追いつくよう精進してゆく所存です。諸兄姉の御支援と御指導をお願い致します。

最後になりましたが、本年6月「微生物学教室の小山先生を祝う会」がお茶の水のホテル聚楽で開かれ、生化学、衛生化学、微生物学教室の卒業生を中心として77名もの方々の出席を載きました。8回生の畑中耕一氏の司会により、長谷川先生の開会の辞、澤村先生の激励のお言葉に続いて、高取和郎氏（3回）乾杯の音頭で始まり、若かりし頃の小山先生の活躍の様子等が披露され、会の終り近くには、いささかテレ気味の小山先生夫妻に花束が贈呈される等、非常に盛会でした。

なお当教室の所在地は、千葉県船橋市習志野台7-24-1（電話0474-66-1111内線314）です。近くにお越しの節は是非お立ち寄り下さい。　（井口記）

生薬学教室

本年度は、北中助手が内地留学を終え新らたな気持ちで頑張っています。給費生の島立玲子さん（27期）は、松戸歯学部へ転出され、その後任に小勝裕子さん（28期）が加わり駿河台校舎は、滝戸教授、北中助手、花輪君、小勝さん、吉村研究生（5期）、それに私安川、習志野校舎には、山内助教授、木村副手と研究テーマにより配置されています。前号以

降の研究成果としては、学会誌2報、学会報告4報、学術講演会に3報を報告しました。また、本年度より3年間の予定で、本学姉妹校である韓国中央大学校の金一赫教授と「日韓両国における新天然薬物の開発研究」のテーマで日本大学海外学術助成（太田基金）を受け、韓国の生薬についての研究を始めました。また、本年度は本学工業化学科の松本教授、生化学教室高橋教授らとの共同研究「薬用人参の組織培養による品質改良」で日本大学学術助成を受けています。

1月には、研究打ち合せ等のため、金一赫教授が来校され、総長、部長への表敬訪門、学内見学、ディスカッションとお忙しい毎日でした。韓国の薬学教育は厳しく、進級時に成績の悪い学生を2割放校とするそうですが、それには男子が多いとのことでした。また、金先生はアルコールの方も仲々で山内先生もたじたじでした。8月には滝戸、山内両先生が韓国へ出張され、研究の打ち合せ、生薬市場、薬用植物の栽培地、ソウル大学校や中央大学校を見学し、韓国の薬学教育、研究、市場等を肌で接してこられました。写真は韓国の新聞「薬業新聞」「薬師公論」に訪韓についてのインタビューを受けている両先生です。

韓・日"傳來민간약"共同연구

漢藥성분 生理活性

兩國 민간藥사용

◇한·일생약공동연구를 위해 내한한 日本大교수들. 가운데 金一赫 중앙대교수.

薬業新聞（韓国）より

さて、本年の卒論生は、17名（男子10名、女子7名）で、現在就職戦線の真最中です。主な就職先は、山内製薬、吉富製薬、カネボウ薬品、エスエス製薬、富士レビオ、日本医薬品工業および千葉大学院、病院、薬局等となっています。新らしい後輩達をよろしく御指導下さいます様お願い致します。

最後に、今年度の「りんどう会」において発足した「りんどう会ゴルフ同好会」の発会コンペが、大庭先輩（3期）のお骨折りで8月3日習川城カントリークラブにおきまして原田会長をはじめとし腕に覚えのある？15名（1期から27期）で行なわれました。当日は、晴天にも恵まれ1期から27期生まで和気あいあいと、楽しい会となりました。最初は、固くなっていた若手も先輩からバンカーショットの奥伝を教授していただくなど前半は熟年組、後半は若手が頑張りました。優勝、準優勝は8期生のカネボウ勢にさらわれ、次回は、優勝の樋渡先輩とBB賞の中村先生と両氏が幹事で3月に行なう事が決定されました。参加者の成績と当日決定されたハンディキャップ（変則キャロウェイ方式）をお知らせ致します。氏名、期、HDCP、スコア（敬称略）

原田（1、24、107）、小野（1、25、103）
黒田（1、19、 96）、平 （2、32、119）
大庭（3、28、112）、高崎（3、37、126）
中村（3、45、137）、笹野（4、44、135）
樋渡（8、12、 88）、菅野（8、18、 94）
安川（18、31、115）、目 （24、37、124）
小沢（24、39、120）、藤村（24、46、146）
花輪（27、46、130）　　（安川記）

薬物学教室

桜薬会会員の皆様にはお元気で、社会あるいは御家庭で御活躍のこととお慶び申し上げます。薬物学教室も教室員、卒研生一同、元気で頑張っております。

教室員は村越善衛教授、草間貞、伊藤芳久両助手と牧村瑞惠、そして昨年に引続き院生扱い給費生の石毛久美子さんの5名です。また、昨年研究生であった山北信広君は某会社の研究員として、58年4月より就職しました。

動物室管理の井熊一宏君は、管理の仕事のかたわ

ら研究にも励んでいます。昭和44年に設置された動物室も、飼育機、室調設備ともに老朽化のため、今年度10月から全面的改造となり、現在実験室は動物と同居の状態にありますが、卒研生ともども動物とお話しながら楽しくやっています。12月上旬には完成の予定です。

教室関連科目の生理学・解剖学担当は、渡辺俊男先生が引続き講義・実習に、病理学担当は日大・医学部教授の桜井勇先生があたられています。

研究課題は前年度同様、「モルヒネ依存性発現機構に関する研究」、「駆虫薬の作用機序」および「アルコール代謝におよぼす諸種薬物の影響」で、関連学会には必ず1演題は報告できるよう、日夜努力いたしております。

さる、11月5日(土)、半蔵門会館において、第11回薬物同窓会がひらかれました。来賓(教室関係恩師)7名の出席のもと、総勢115名が集まりました。昨年、同会長の柳沢靖好氏（7期）に加え、海野広司氏（8期）、刈込直美氏（26期）の3名を失った同窓会とあって、現会長安藤修一氏（7期）の挨拶の後、全員で黙禱を捧げ、御冥福を祈りました。その後懇親会に移り、久しぶりにお会いした諸先生、先輩、同期生と楽しい一時を持たせて頂きました。

昭和57年度の卒研生16名（男子10名、女子6名）の就職状況は企業5名、病院4名、地方公務員2名、大学1名、大学院進学1名でした。今年度の卒研生17名（男子10名、女子7名）もほぼ就職が内定しました。

最後になりましたが、同窓諸兄姉の一層の御健勝と、御発展をお礼りいたします。（牧村記）

香粧品化学教室

桜薬会会員の皆様におかれましては各方面において御活躍のことと推察いたします。

教室員一同、変わりなく元気にやっております。58年4月からは今年卒業の私（斎藤夏美）が卒研から引き続いて研究室に残ることになりました。最初は何もわからず戸惑うことばかりでしたが、佐藤孝俊先生はじめ、斉藤好廣先生、その他研究室の方々の御配慮によりどうにか仕事をやり続けている毎日です。

今年度の当教室の卒業生（28期）は、15名で国家試験の合格率も良好でした。現在それぞれの職場において努力を重ねております。

今年度の卒論生は男子5名、女子11名の計16名が配属になりました。相変わらず女子が圧倒的に多いのですが、それでも周囲からは今年は以外と男子が多いというような声も聞かれております。このようなメンバーで7月の23～24日には、伊豆の下田温泉に卒研旅行にいってまいりました。幸い、天候にも恵まれ花火大会、伊豆半島めぐりと楽しい一時を過ごしました。掲載した写真は、その時のものです。

又、10月8日には卒研対抗のソフトボール大会が習志野校舎で行なわれました。あいにくの雨模様でしたが、赤ハチマキをしめて、皆一体となってがんばった甲斐があり、3位という好成績をあげることができました。

大学祭も近く、卒業研究も軌道にのり卒研生はそれぞれ卒業試験や就職に向けて皆一生懸命頑張っている毎日です。

末筆ながら、桜薬会会員の皆様の御健康とより一層の御発展をお祈り申し上げます。（斎藤夏美記）

薬化学教室

桜薬会会員の皆様には相変らずご活躍のことと存じます。当教室員一同も里見先生を中心にして元気

にやっております。里見先生は昭和35年に乙卯研究所より薬学科教授として転職されて来られ15年間薬品製造学教室に、その後50年に定年退職された黒柳名誉教授の後任として学内人事移動により薬化学教室で9年目を迎えます。現在満24年間の職務年月を経て、来年の3月には二人目の定年退職になります。

ここに薬学科の一員として、また教室の一人として黒柳名誉教授と同様に“先生へ感謝する会”を教室一同が企画しております。その時にはご懇親をお願いいたします。先生は相変らず人情味豊かにご講議なされ、また温厚なご性格で学生達にご教鞭下さるので、学生のこぼれ語しでは釈迦の里見といわれ尊敬されています。多数のご参集を切望しています。

黒柳先生は現在もご健在で薬学概論のご講義のため研究室にお出でになり、われわれに有益な教示を賜っておられますし、立山先生も月に数回程ご来室され、薬剤師国家試験受験生の講習について益々専念されている現状です。われわれは両先生の輝かしい業績を継承し、それぞれの業務並びに研究に精励しています。

58年4月に給費生扱い副手として勤務されていた高野貢司氏（54年卒・工業化学科大学院修士57年卒）は退職され、現在茨城県警察本部科学捜査研究所に勤務し、分析捜査の要職に就かれ活躍しております。その代りに新卒の安藤敏氏と加藤祐二氏らを迎えて、室内の研究及び諸々のお手伝いをしていただいております。

卒論生の男女比率は常に男性の優勢で、薬学では男臭い研究室で通っていた、しかし本年は一変して18名中女性13名になって、卒研中の憩いの際には花菖蒲の様な感じをさせるときもあります。

ＯＢ諸氏に直接お世話になった就職先（17名中5名）は次の現状を紹介しますが、他については略させていただきます。

飯川和智　協和発酵、川上千秋　天心堂薬局、菅野敬市　北区薬剤師会営業赤羽台調剤薬局、前田行俊　アポス調剤薬局、山田孝志　東京田辺製薬

以上、今後共教室、薬学科の発展のため努力する所存ですので、桜薬会諸氏のご援助を心からお願い致します。（宮尾記）

薬品製造学教室

桜薬会会員の皆様には相変らずご活躍のことと存じます。当教室員も一同元気にやっております。

このたび昭和54年4月、塩野義製薬から助教授として当教室へ就任されました徳竹伯夫先生は昭和58年4月1日付をもちまして教授に昇格なさいました。

教室員の異動がありましたのでお知らせいたします。58年2月、給費生として教室に勤務された伊藤寧子さんが退職され、後任に本学科58年3月卒業の杉浦貞美さんが当られ4月1日より元気よく勤務されております。

昭和58年度の当教室の卒業研究生は男子7名、女子9名です。7月下旬には軽井沢研修所へ2泊3日の卒業研究旅行へ出かけ、就職に関するゼミナール、ソフトボール、テニス、花火大会など盛りだくさんな内容で教員・学生相互の親睦を大いに深めました。写真はその時のものであります。

後期に入って卒業研究は本格化いたしております。就職も決まりつつあります。各卒業研究生はそれぞれのテーマに鋭意取り組まれています。

末筆ながら会員諸氏の一層のご活躍をお祈り申し上げます。（道祖土記）

薬学科卒業生の就職に関して

薬学科就職委員会委員長　　中村　健

冒頭に、桜薬会諸兄姉の益々の御活躍と御健勝を心からお慶び申しあげます。

先輩諸兄姉におかれては、日頃より、本薬学科卒業生の就職に対し、多くの御協力をいただいておりますこと、学校当局として厚く御礼申しあげます。

ここに本会報の場をかりて、先輩諸兄姉への御礼と最近の卒業生の就職状況の御報告、並びに今後益々の御協力についてお願いの言葉を申しあげます。

まず、最近の卒業生の就職の現況について述べますが、昭和58年３月卒業生の就職状況は、次表に示すとおりであります。この傾向は、ほぼこの数年同様の傾向でございます。御参考になればと存じ報告申しあげます。

次に校友各位へのお願いですが、御承知のとおり、全国的な薬学科卒業生数の増大と医療経済の逼迫の影響により、今後の就職状況は益々その激化が予想されます。

かかる状勢のとき、学校として最も頼りになるのが、先輩各位の御協力でございます。

そのような関点から、我々は元より学生も今後何かと御相談や御協力を仰ぎに参る事多きと存じます。その節はよろしく御協力の程お願い申しあげます。

なお、先輩各位の職場において、女子の求人の機会がある場合には、早めに、学校の方（御出身教室か、薬学科就職係に）へも御連絡いただければ幸いでございます。

終りに、日頃の御協力に感謝するとともに、特に桜薬会としても、本年度よりは、就職関連費の予算計上化など、多大な御協力をいただいた事、併せて本紙面をかりて重ねて厚く御祈申しあげる次第でございます。

昭和57年度薬学科卒業生就職状況

	男(名)	女(名)	計(名)	卒業生に対する割合(%)
昭和57年度卒業者数	72	102	174	
製薬企業	22	15	37	21.26
病院（含研修生）	17	28	45	25.86
薬局	10	11	21	12.07
公務員	6	2	8	4.60
試験所等		3	3	1.72
大学教育関係	3	10	13	7.47
その他の企業	2	5	7	4.02
自営業	2	2	4	2.30
進学		4	4	2.30
就職者数	62	80	142	81.61

御案内

日本大学会館

国電の市ケ谷駅から歩いて二分。東京に残る数少ない江戸城の外濠を見下ろす一角に、二種類のレンガ色に白の縁どりを基調とした外壁とツインタワーをもつ、みるからにアカデミックな九層の建物が全容をあらわした。

日本大学会館は創立九十周年を記念して着工されたものである。

なお、使用については　電話03-262-2271にお問い合せ下さい。

山本先生に感謝する会

山本純子先生に感謝する会が去る5月22日、パレスホテルにおいて260名のご参会をいただき盛大に開催されました。ご参会いただきました皆様、記念品代をご拠出下さいました300余名の方々、そして会の開催にあたり準備や整理にご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

当日会場では、山本先生に感謝の意をこめて花束と記念品をお送りいたしました。また懐かしい恩師の方々にも多数ご出席いただき、山本先生を囲んで楽しいひとときを過ごすことができました。重ねて御礼申し上げます。山本先生には益々のご健康をお祈りし、会場での記念写真をアルバムに編集して、芳名帳および色紙とともにお届け申し上げましたことと併せて、会の決算を下記のごとくご報告いたします。

決　算　報　告

収入		
	会　費	3,120,000
	記念品代	573,000
	合計	3,693,000
支出		
	祝宴会費	2,789,100
	印刷費	115,800
	雑　費	188,100
	記念品代	600,000
	合計	3,693,000

薬学科教職員代表　桐沢　誠
桜薬会々長　高仲　正

参会者および記念品代ご拠出者ご芳名

木村雄四郎・杉井篤・立山弥七・猪瀬秀雄・中村泉美・辰野高司・里見政吉・桐沢誠・滝戸道夫・澤村良二・村越善衛・有吉歌子・佐藤孝俊・長谷川稔・斉藤太郎・宮尾利政・渡辺俊男・小川真理子・桜井映子・越阪部俊子

山本先生に感謝する会

1期生　秋本稔・大石峰子・大神信勝・岡村信・笠井能子・木下肇・木下禎子・高玲子・小山隆・神保恵美子・鈴木隆子・滝戸澄子・陶山順子・戸塚淳逸・外山美代子・新村宗敏・伏田英雄・細谷啓子・森山芳昭・吉沢秀明・吉村恭子・分林孝夫・篠美智子

2期生　秋本公秀・麻生惇子・東睦世・吾妻慶子・石黒文夫・石黒由美子・石塚光二・石渡康保・池上武子・伊勢美佐子・一ノ瀬衛・海老名友・川口愛子・小師國彦・新庄勝助・鈴木英夫・平栄・高木茂夫・高仲正・高橋信昭・田中陽子・鶴田実・冨田修・中山純雄・野村博子・平山薫・廣見清文・松浦美代子・松永泰子・望月玉江・森田允子・若松佳子

3期生　石塚芳史・伊勢忠・稲垣利治・大久保令子・大庭一郎・小川昌保・小野都子・金子佐知子・河島智・軽部玲子・木村時子・佐藤雅子・須藤ひさ子・高取和郎・達谷窟庸介・徳竹伯夫・中村健・松本久雄・毛利正・森佳子・八下田文江・山田愛子・山本庸子・宮川素子・大川規一郎・大川和子

4期生　有本亨・和泉昭夫・市原正・伊藤基治・猪股三男・牛尾俊江・遠藤邦子・大島芳郎・加藤敬一・加藤小石・金井初枝・椛沢洋三・木村清・小泉守・阪本一彦・笹野英雄・島峯望彦・清水英雄・角田吉弘・妹尾昇・高橋周七・中村昭二・永瀬一郎・根本乃夫・山内盛・山口裕啓・吉田久子・小倉喜五郎

5期生　有澤宗久・奥窪伸之・加藤沃庫・香取悦・吉川洸・吉川登志江・君島正彬・窪田宏子・斉藤文夫・佐野京子・菅沢秀子・菅沼和子・鈴木京子・瀬川節子・高野俊彦・豊田亮三・西本行雄・長谷川明・

波多和人・深谷和子・安田ひろえ・山内育子・吉川郁子・里見章

6期生　安藤邦夫・石田康雄・市川征江・景山洋子・金西信次・栗原武久・国分隆明・後藤文男・後藤博子・小林昌子・坂本寿三・坂本寿子・佐藤文子・渋江洋介・玉田輝己・富田貞子・根本圭二・張黄煥貞・前田敏晴・町田巌・松島章浩・松澤孝昌・三沢光代・三股輝夫・山口智子・若菜茂二

7期生　会田洋子・一色捷一・稲葉英一・今井康夫・梅本準治・川生洋子・岸方子・久田佐智子・小森谷守・志村治良・志村信子・下田富郎・杉山浩子・須田暘子・住江英夫・高澤克昌・田中孝治・永井雅葉子・藤原充雄・二川博子・間瀬泉・守屋芳子・宮川孝・峰島高子

8期生　青木正忠・赤木素子・石川将一・大野比奈子・君島小枝子・小杉万亀子・高松田鶴子・武井侑代・千葉貴司・寺沢正孝・豊島清麿・長崎雅彦・波間美佐子・前田圭一・山田紀子・小山己知子

9期生　小田昌紀・神田栄茂・木村秘子・小出操・小宮宏宣・清水慶子・代田勝彦・関良子・高塩芳男・塚本哲也・津田百合子・中島正恵・西川宣征・廣木豊憲・福井紀子・松原以登子・村瀬紀芳・渡辺和子・鎌田邦栄

10期生　石井一昭・大林裕子・大山喬子・金谷京子・木村由美子・黒川和子・小林郁夫・五味孟・斉藤重野・坂田英明・佐藤哲夫・中原保彦・長谷川紀子・平井清作・牧村瑞恵・牧野弘子・宮野ヨネ・榎本英機・水野聚

11期生　岩瀬廣・上村浩子・加藤一枝・金子節子・加納節夫・神薗晶子・小林盛子・柴崎照美・柴崎道博・関根和子・長谷川壽男・藤川睦子・松下孝子・山本正和・高松良子

12期生　浅野真利・荒井正雄・石倉芳夫・磯田満保・古池輝久・小清水敏昌・佐藤洋子・鈴木長生・須藤健一・原田隆子・保坂盛夫・森田近嬰

13期生　藍原恭子・大津賀睦子・小川義和・折田耕四郎・工藤照文・栗山忠俊・酒井真澄・笹本欽弥・小川賢三・赤松俊明

14期生　相見光郎・牛込陛阜・牛込昌子・内倉和雄・冠政光・楠沢清・柴田美穂・西村友則・細田庸子・山下歌子・古池愛美子・加藤康子

15期生　伊藤正規・草間貞・後藤充良・道祖土勝彦・土肥栞・藤波寛・牧村紀子・望月孝・吉川和基・渡辺好子

16期生　芦沢芳子・岩藤章正・君島功一・小久保実・酒井秀量・寺島潔・中村紀・成川秀隆・飛田正廣・古川元康・松沢佐衣子・真鍋純子・山内慶一・渡辺幸枝

17期生　内倉美津枝・大河原義重・大久保善光・北中進・工藤隆・久保秀一・梱沢美知子・笹川久美子・鈴木ひろみ・高木健光・玉木すみ子・中丸保・中村光一・名塚登美子・根本景子・宮崎格一・矢野間道明・山本豊・渡辺良一

18期生　青木豊美・井上佳江・大川成司・岡村光夫・小川希久子・大河内恵美子・大河内一紀・樺島順一郎・斉藤好廣・道祖土隆子・柴崎文雄・露木裕・土橋敬子・馬場真喜子・三浦修・南川英明・山根典子・相村豊子・山本美枝子・安川憲

19期生　伊原千秋・内海秀子・大嶋陽子・小野太郎・小林康泰・土屋洋一・伴野和夫・藤田敬子・矢萩敏子

20期生　井出純子・井出好昭・大蔵秀喜・大野秀利・大野雅子・草間國子・小泉清美・清水裕子・竹内政子・立川真理子・長井邦男・永昭章・三浦勇一郎・村瀬有・村田悌治・山口やよい・山崎枝子

21期生　井口法男・小野沢隆志・唐津佳孝・小泉博・中宮章憲・樋口弘子・本橋重康・横田健・吉田善一

22期生　伊藤芳久・今別府かおる・内田温子・岡田秀己・岡田政代・奥山靖子・金子敦美・苅部博哲・木村龍介・小柴歳一・小谷正・角南美津子・高畠亨・田中容子・坪田圭子・諸沢博美・矢口澄江・安川阿良里

23期生　石井誠一・加藤明子・小林茂子・櫻山陽子・東海林美干・杉山裕茂・高橋光枝・細川みゆき・槇田真也・三宅宗晴

24期生　荒川一利・石川久子・石坂英子・磯野秀和・上濱正・老月尚子・大橋教子・小沢知之・加藤孝司・北中友子・近藤純江・沢島千恵子・田崎千鶴・田辺

浩二・椿恒雄・窪田みどり・長瀬敏枝・長瀬勝美・人見一男・松本明美・松本道明・三浦安寿・三浦良江・矢花秀雄・矢花文代・山口明・横井泉

25期生　青木京子・秋元幹夫・浅野久美子・石田恵子・梅津博之・大野幸夫・梯弘子・神山準一・川上正司・喜多志津子・北山純子・風間英美・草薙文子・倉田真理・栗太隆・是永育雄・柴崎勉・穴倉聖子・白花勝・関晶子・高山哲・中島珠恵・長山幸太郎・橋津雅宏・葉梨敬枝・藤井靖子・星野ふき子・森井三恵子

26期生　飯塚智子・池上洋二・井態一宏・石渡恭幸・井田和幸・伊藤美智子・大賀真司・大野扶美子・大溝晴代・木村文恵・小池昌子・越川藤乃・田川倫子・富田佳子・富永博之・中田滋子・沼田仁子・本元智由紀・長谷川祥子・馬場文子・原口真奈美・本多玲子・矢部千恵子・山形弥生

27期生　飯塚進・石毛久美子・石田英雄・伊東康夫・井上均・久保充正・栗原孝・佐藤勇・杉山永利子・清宮千春・関口弘・富井純一郎・長張孝子・野田範子・村上喜美夫・森秀夫・渡辺久美子・渡辺正実・鈴木尚美

28期生　安藤敏・池田万理子・石塚規子・井上佳子・上野基樹・小田切智子・春日井照夫・加藤裕二・刑部万理・小長谷栄一・小林久美子・作左部しのぶ・佐藤明・島崎幸弘・角藤恵美・高山京子・滝原明美・千原昇・長峰富士夫・樋口亨・久田真理子・平澤和彦・副島美紀・福本恵子・本多修・松戸勝浩・目崎純子・山田雅美・吉村直人

伝　言　板

里見政吉先生に感謝する会

先生は昭和35年に理工学部教授になられてから満24年の永年にわたって、研究者であると同時に教育者として有機化学、薬学概論及び薬学英語などの教鞭を執られた、ここに昭和58年度をもちまして定年ご退職されます。本学部において多くの人材を育て世に送られたことは何よりも偉大な業績であると信じますので、薬学科教職員と桜薬会の共催で「感謝する会」を昭和59年５月27日に開くことになりました。後日、世話人会よりご案内を送付いたしますが多数ご出席下さるようお願い致します。

（宮尾記）

御　案　内

桜薬会会員名簿（昭和57年版）は会員各位の多大な協力を得て、本年２月末日付で完成し、４月より配布（有料）を行いました。昭和57年９月卒業生迄収載し全卒業生を地方別に編集し、自分達の周辺に何人ぐらいＯＢがいるか、一目で判る様にしてあり、当然のことですが、親子・夫婦・兄弟姉妹は並んでおり、他薬大よりユニークな編集と評価を受けています。又昭和58年３月卒業生につきましては追補版として発行しています。購入希望の方は下記要領で事務局迄申込んで下さい。

昭和57年度版桜薬会会員名簿

収載内容	役員名簿・現職退職教職員名簿 卒業生名簿（地方別　5566名） 索引・卒業期別・卒論別・企業別 総索31 Ｂ５版　338頁
価　額	追補共3500円（送料込）
申込方法	郵便振替で事務局迄 振替口座名　日本大学桜薬会 振替番号　東京　２－50025

駿河台コミュニティー

第３回生同窓会の開催について

初秋の９月15日、第３回生の卒業25年を祝う同期会が、東京、新宿小田急センチュリーハイアットホテルで盛大に開催されました。

当日は、北は山形から軽部氏、南は福岡から伊藤氏（旧姓森田）も出席され、予想を超えた70余名が出席する盛大な楽しい宴でした。

シャンデリア輝く豪華な部屋、センチュリーホテル自慢のフランス料理もさることながら、25年の歳月を忘れて想い出を語り合う友の姿は、いずれも心からの安らぎと輝きに満ちた楽しいひとときでした。

ときに、ひときわ大きな認笑の場をみると、そこには、恩師より昔の古傷を被露されて赤面する昔のつわものの姿もありました。定刻がきても別れがたく出席者の大半が引きつづき、二次会に参加する程の会の成功を目の当りにして、当日の幹事諸君の顔も満足げでした。

なお、次回は５年後に30周年会を盛大に行うことを決定し、幹事代表は小川君（薬物教室）が当ることも決められ、５年後の再会を約して散会しました。

終りに、御多用の所を我々のために御参席いただいた、恩師　木村、辰野、高村、沢村、滝戸の諸先生に心からの感謝の意を表するとともに、本会の準備に多くの努力を払われた幹事諸君にも敬意を表します。　（３回生25年会　世話人）

八期生20周年記念同窓会

八期生も卒業して今年で20年になりましたのを記念して同窓会を昭和58年７月３日、山の上ホテル「海の間」で開催しました。この会を催すに当り、石川将一さんを中心に２月18日を第一回として何回か幹事会を開き、準備してきました。

当日は雨模様の天気にもかかわらず黒柳先生、木村雄四郎先生を始め、里見先生、立山先生、中村泉美先生、山本先生、桐沢先生、沢村先生、滝戸先生、村越先生、椛沢先生、佐藤先生、岡村先生（順不同）の諸先生方と桜薬会から会長の高仲正氏の御出席をいただき、12時より山口透さんの司会ではじまりました。

最初に幹事長の石川将一さんより開会のあいさつがあり、物故となられた石松先生、井上先生、木村知時先生、高本先生、平山先生の諸先生と友人の海野広司さん、加藤（田谷）潤子さん、佐藤征さんそして西川正則さんの方々に出席者全員で黙とうをささげました。その後現在薬学科主任教授の桐沢先生から薬学科の現況を含めた御祝辞をいただきました。

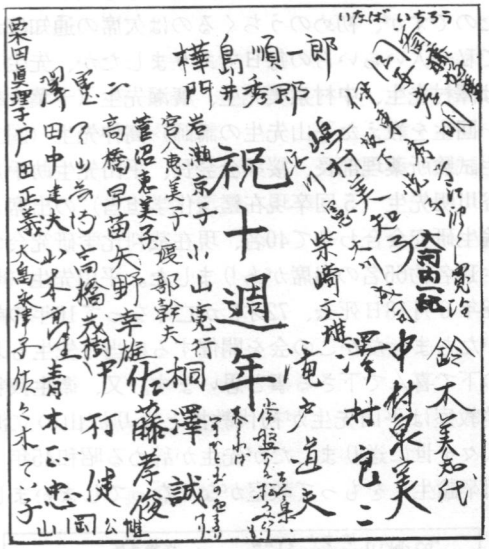
この中では薬学部昇格について若干の明るさがみえてきたというようなお話も御座居ました。そして同窓会の高仲会長から祝辞をいただき中村泉美先生の音頭で乾杯しました。引き続き黒柳先生からお言葉と一緒に第一高等学校の寮歌の一節をうたわれました。また木村雄四郎先生からは御自分は85才になられてもお元気に講演等で日本中を歩いておられるそうで、先生よりずっと若い私達に薬剤師という職業柄からも健康管理にこれからも留意するようにというお言葉をいただきました。

それから懇談に入り、各卒研教室毎に恩師の先生を囲んでマイクの前に集まり、学生時代を想い出して校歌をうたったり、カメラに収まったりしました。最後に出席者全員の集合写真や寄せ書きをし、次回の同窓会の幹事に河南雅章さんと波間美佐子さんを選んで閉会しました。出席者は約85名でした。

20年ぶりに会う人もあり、思い出せない顔もありましたが、それも束の間で、すぐ学生時代に戻り和気あいあいとすごし、3時間が大変短く感じました。社会でも中けんになり、忙しい毎日に体も酷使することも多いと思うのですが、お互いに健康に留意して努力し次回の同窓会でも全員元気に再会したいものと考えたものです。

第18期生卒業10年記念同窓会

昭和40年代日本大学は学園紛争の最中であった。世に言う日大紛争である。我々18期生は、紛争中に入学してその終結と共に卒業した。1年次の習志野校舎、2、3年次の駿河台校舎ではロックアウトの連続であった。しかし、卒業研究は紛争の影響も無く十分に行なえた。在学中には、沖縄返還、高度成長時代の終わりでもあった。そんな48年、我々18期生247名は社会へ進んでいった。あれから10年の間に、結婚、出産等、社会においても中堅と成り最も忙しい年代にさしかかっています。こんな時ではありますが、当時の先生方を交じえて旧交を温めようと同窓会を11月23日池袋サンシャインシティー・プリンスホテルにおいて行ないました。当日は、桐沢主任教授をはじめ7名の先生方と33名の卒業生が再会しました。先生方には、10年の年月を感じさせないお姿でしたが、我々の仲間には、頭に白いものが混じってきた者も見られ、皆貫禄が付いてきた様に思われます。薬学関係以外の職業に付いている方も何人かおられました。また、児玉豊美さんは青木先生と結婚され、当日は育児のため先生が出席されました。欠席された多くの方々も皆育児のためと私も含め、子供と格闘中の年代の様です。出席された女性の方々も、当日まで子供が風邪などひかない様にと苦労話も聞きました。八戸、大阪など遠方から出席された方、皆様とまた再会する事を楽しみにして閉会しました。(安川記)



衛生裁判化学教室および裁判化学研究会同窓会

昭和58年10月２日、お茶の水、銀座アスター

昨日来降っていた雨も止み、今日の会を祝福するかのように秋晴れのすばらしい天気でむしろ暑いくらいの陽気でありました。何年も何年も願望していた会が今開かれようとしている本当にうれしいです。又この会を開催するに当り和泉氏（四期）或は長谷川先生と再三再四打ち合わせをし住所は木村先生（10期）に教えを乞い出欠のはがきを出してもらったのですが、初めのうちくるのは欠席の通知ばかりで私一人いらいらの毎日でありましたが、先生方では澤村先生、中村泉美先生、廣瀬先生（千葉大教授、一回生を教えた平山先生の講師）高仲先生（国立衛生試験所薬理部長、桜薬会会長、平山先生助手）長谷川明先生（５回卒現在鑑識化学担当）の出席と卒論生研究会合わせて40名、現在裁判化学研究会の学生19名約65名の出席がありました。平山先生（昭和48年６月18日死去、72才）が亡くなって10年の歳月がたちましたがこの会を開催するに当り先生もお墓の下で喜んで下さる事と思います。又、衛生裁判化学教室は平山先生が初代教授となり沢山の立派な人々を世に送りましたが先生が辞める昭和45年（15回卒論生）をもって教室がなくなってしまいました、

その後は澤村教授の衛生化学教室に移管しまして学校からの連絡及び事務処理はすべて衛生化学教室より発信されております。前置きはこれ位にいたしまして当日会は私が想像していたよりも盛大に行われました。会場は最近出来ました御茶の水の際にある銀座アスター21階で行われました。左に東京湾を遠望し、眼下に薬学２号館の屋上が見え、少し過大な表現ではありますがヘリコプターに乗った様な気分でありました。一時より会が始まり澤村先生、廣瀬先生、高仲先生の祝辞と中村先生の乾杯の音頭で会は最高頂に達し又銀座アスターの料理もおいしく昼とは思えない程酒のピッチも上がり、久し振りの会で、同期生同志又は先輩と学生達と小さな輪が沢山出来司会の私が何もしないうちに時間が経過し閉会の辞を日本大学医学部助教授の塚本先生（11期）にしてもらい無事会が終りました。又入部先生は京都で学会の為出席出来ませんでした。１回生の卒業生が誰れも来られなかった事は残念でした。尚この会の為にお世話頂きました高仲先輩、和泉先輩、長谷川先輩、有りがとうございました御礼申し上げます。又この機会をもちましてこの会が発展します様皆々様の御協力を御願い申し上げます。　（前田記）

秋田県同窓会（秋桜会）について

このたび昭和58年10月22日に、第２回秋田県同窓会（略称：秋桜（しゅうおうかい）会）総会を行いましたが、これまでの経偉などについて報告します。

はじめに、秋桜会が組織運営されるまでを第１回総会開催と経違も含めて説明します。第１回総会は昭和55年晩夏より加賀谷進二（31年薬剤）氏が提案、発起人として高橋信昭（33年薬剤）氏が中心となり県内在住者の所在などの情報収集に尽力され、約30名程の把握ができ、その中から13名が出席可能となり、とにかく総会を行い実績を作らなければ発展も積み重ねも如りませんので、昭和55年11月29日第１回総会が秋田市内で行われました。二ツ井、能代、横手、湯沢からも出席され、最初はぎこちなくしておりましたが、アルコールが効き始め、坐が

動き始めると、同級生からは聞くことのできなかったような、先生、先輩の方々の裏話など、それは講義以上に有意義で興味のある話が多く聞くことができました。また、見知らぬ地方へ転勤、出向されてきたプロパーの方々は普段の精神的緊張があるためか、この席での先輩後輩の人のつながりに心温る思いをいだかれたようでありました。このようにして盛会の中に終了し第一歩を踏み始めたのでした。

そして、今回の第2回総会への運びとなりました。それまで幾度か開催を計画しましたが諸先生のご都合とかで実現できず今年になってしまいました。秋田市の浜乃屋という「きりたんぽ」の名所で、本部桜薬会会長の高仲正氏をお迎えして12名の出席者で行われました。当初出席予定者は約20名でありましたが病気、出張など仕事上の都合などにより、前回程度でありましたが、本会に対する理解度、積極性は前回を上回るもので手ごたえがありました。高仲会長からは、本会の発展と活動に対する期待と、希望的観測として、近い将来薬学部昇格の期待値が高いことの話があり、後は名物きりたんぽと秋田美人のお酌で、充分会の目的である親睦に努められていただき盛会の中に散会しました。そして、次回は来年、男鹿で行いたいという意見が早くも出ていることを紹介しておきます。同窓生の皆様、秋田へ立寄りの際は是非声をかけて下さい。

（文責：46年薬物卒、斎藤正俊）

日本大学薬学科杉並区在住同窓生の集い

過日11月23日区内荻窪駅前タウンセブン7階「大珍楼」に於いて40数名の参加者を得て、盛況の中に催された。

企画は数年前にたてられていたが、いろいろの事情からなかなか実現出来なかったが、今回幸いにも学校並びに桜薬会のご協力を得て発会の運びとなり此の上ない喜びであった。発会の主旨は以下のものである。

(1)縦、横のラインをそれぞれ組み合せ面としての能力を発揮させると共に交友を高め人格の向上をめざす。

(2)学校より日進月歩の発展をとげる薬学の新知識の教導を仰ぐと共に、各方面で活躍するO．Bによって情報をフィードバックし相互の関係を強固なものとする。

(3)地域的な活動を高めながら、薬剤師会に協力する。等々……

当日は第1回ということで親睦会に終始したが、大変意義があったと感じている。学校より桐沢主任教授が御多忙の最中我々のために時間をおとり頂いたことは光栄であり、実に同区内に居住されている沢村教授が同郷のよしみで参加され、桜薬会から高仲会長が御出席願えたのは喜ばしい限りである。発起人に連名された山内、長谷川両助教授は卒業生会員としての誇りである。

本会は、参加者全員の賛同を得て「桜薬会杉並支部」と定め、毎年1～2回の会合を持つことになった。第1回卒業生の中から会長という声があり不本意ながら初代会長不肖木下がお引き受けすることになった。以下役員は副会長高木（2期）、高崎（3期）理事に山内（4期）、坂本（4期）、伊藤（8期）、会計高橋（捷）（10期）の諸君にお願いしたので、関係諸氏の御理解ある御協力を節におたのみ申し上げる。尚今回不参加の諸君のお便りでは会への期待があり次回には出席したいとするものが多く見受けられた。

会長　木下　肇

事務局だより

日本大学桜薬会

昭和58年度総会、開催さる

事務局

昭和58年5月22日（日）正午より東京パレスホテル“若草の間”で、松島章浩（6期）司会のもとに、通常総会が開催された。

開会の辞（司会）、会長挨拶（高仲　正氏）、名誉会長挨拶（桐沢　誠薬学科主任教授）に続き、議長島峯望彦（4期）副議長大川成司（18期）書記本橋重康（学内）が選任された。議事は会則に従い、審議され原案通り承認された。答疑事項としては1）会員名簿掲載の退職教職員欄に欠落があること、2）会費納入状況の確認及び積極的な徴収を行うよう指摘があった。1）については講師以上の退職者を収載したことを回答したが次回の名簿については理事会で審議することになった。2）については、前年度導入したパソコンにより納入が簡単に判ること、又徴収方法については再に良い方法を検討することを事務局より回答した。

庶務報告

○会員（昭和58年4月1日現在）

	（名）	前年比
正会員	5,566	＋185
学生会員	874	＋29
特別会員	36	＋1
準会員	0	0
計	6,476	＋215

○役員会

理事会　2回開催

委員会　3回開催

○支部会合他

大阪府支部　57. 4. 3.

於大阪市　レストラン“プウーン”高仲会長、桐沢先生　他　29名

中村先生に感謝する会　57. 5. 23.

於東京都　赤坂プリンスホテル　高仲会長、桐沢先生　他　500名

7期生卒業20周年記念　57. 7. 4.

於東京都　山ノ上ホテル　高仲会長、桐沢先生　他　89名

愛知県支部　57. 9.

於名古屋市　都ホテル　中村副会長、沢村先生　他　23名

事業報告

○会報発行：桜薬会会報7

発行日：昭和58年1月14日

発行部数：6000部

○会員資料の整備：第1期作業完了

○会員名簿（昭和57年版）の発行

発行日：昭和58年2月28日

発行部数：1300部

○就職あっ旋（求人、求職）：58件

○地方支部会の開催：庶務報告の通り

財務報告

年度決算（昭和57年4月1日～昭和58年3月31日）

○収入の部　（円）

	予算	決算	増減（△）
年会費	9,200,000	2,800,000	△6,400,000
工科校友会部会費	100,000	306,500	6,500
工科校友会割戻金	200,000		
雑収入	200,000	650,749	450,749
前年度繰越	1,056,806	1,056,806	0
計	10,756,806	4,814,055	△5,942,751

○支出の部　（円）

	予算	決算	増減（△）
印刷費	4,000,000	1,161,638	△2,838,362
通信費	2,500,000	430,610	△2,069,390
人件費	1,200,000	371,940	△ 828,060
旅費	500,000	0	△ 500,000
会議費	600,000	59,000	△ 541,000
会合補助費	400,000	60,000	△ 340,000
事務局費	500,000	170,785	△ 329,215
予備費	1,056,806	1,750,000	693,194
次年度繰越	0	810,082	810,082
計	10,756,806	4,814,055	△5,942,751

預貯金		基金および積立金	
	(円)		(円)
普通預金	427,682	定期預金(基金)	1,130,000
振替貯金	382,400	定期預金(名簿)	300,000
計	810,082	計	1,430,000

前納会費積立

	(円)
定期預金	5,766,000
普通預金	0
計	5,766,000

内訳	(円)	前年	本年	(名)	(円)
昭和58年度分	1,990,000	((	551+	444)×2,000)	
昭和59年度分	1,694,000	((	546+	301)×2,000)	
昭和60年度分	984,000	((	154+	338)×2,000)	
昭和61年度分	660,000	((	20+	310)×2,000)	
昭和62年度分以降	438,000	((	10+	209)×2,000)	
計	5,766,000	((1,281+1602)×2,000)			

特別会計(パソコン導入)決算

	予算(円)	決算(円)	残金(円)
定期預金	3,297,358		
利子	339,954		
NUPAS-1		3,637,312	0
計	3,637,312	3,637,312	0

事業計画

○会報発行

○会員資料の整備

○就職あっ旋(求人、求職)

○地方支部会の開催

財務計画

年度予算案(昭和58年4月1日～昭和59年3月31日)

○収入の部 (円)

	当年	前年	増減(△)
年会費	8,000,000	9,200,000	△1,200,000
工科校友会部会費	100,000	100,000	0
工科校友会割戻金	200,000	200,000	0
利子	250,000	0	250,000
雑収入	200,000	200,000	0
前年度繰越	810,082	1,056,806	△ 246,724
計	9,560,082	10,756,806	△1,196,724

○支出の部 (円)

	当前	前年	増減(△)
印刷費	2,800,000	4,000,000	△1,200,000
通信費	1,700,000	2,500,000	△ 800,000
人件費	800,000	1,200,000	△ 400,000
旅費	300,000	500,000	△ 200,000
会議費	500,000	600,000	△ 100,000
支部等活動補助費	400,000	400,000	0
就職関係費	100,000	0	100,000
事務局費	500,000	500,000	0
名簿積立費	300,000	0	300,000
予備費	1,360,082	1,056,806	303,276
次年度繰越	800,000	0	800,000
計	9,560,082	10,756,806	△1,196,724

役員(補欠)選出

任期 昭和58年4月1日～昭和59年3月31日

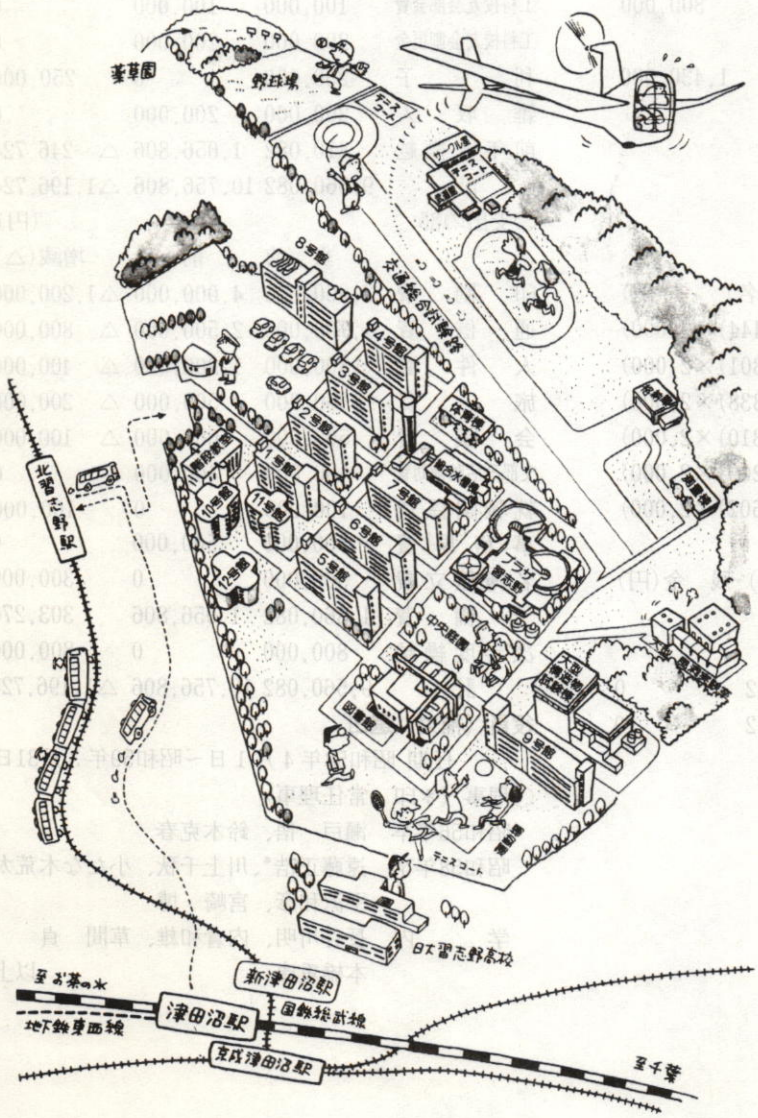
○理事(＊印 常任理事)

昭和56年卒 瀬戸 悟、鈴木克春

昭和58年卒 遠藤正浩*、川上千秋、小たな木荒太
平沢和彦、宮崎 博

学内 長谷川明、内倉和雄、草間 貞
本橋重康 以上

キャンパスあんない



習志野校舎

サークル一覧

陸上競技部
習志野ワンダーフォーゲル部
理工サッカー部
習志野硬式庭球部
理工自動車部
理工ハイキング同好会
理工アメリカンフットボール部
軟式庭球部
習志野ラグビー部
バレーボール部
習志野柔道部
習志野空手部
理工シューティングクラブ
理工軟式野球部
習志野バスケットボール部
A・P・A
理工航空研究会
習志野卓球部
理工バドミントン部
習志野サイクリング同好会
ヨット部
カヌー部
基礎スキー同好会
理工サーフィン部
S・L・C(スポーツ愛好会)
日本大学工科弓道部
フェンシング研究会
ハング・グライダー同好会
習志野ユースホステル研究会
鉄道研究会
英会話研究会
海外研究会
映像研究会
美術研究会
習志野クラシックギターアンサンブル
アメリカ民謡研究会
習志野フォーク村
アマチュアオーディオ愛好会
現代音楽研究会
習志野合唱団
理工放送部 NRH
メカトロニクス研究会
習志野コンピュータクラブ
習志野写真部
サークル・オブ・トラベル
天体写真研究会
習志野漫画研究会
チャレンジ研究会
宇宙航空研究会
理工レーザー研究会
建築土質力学研究会
建築構造力学研究会
ロック音楽研究会

会費納入のお知らせ　　財務委員会

会費納入して頂きました会員の方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがございましたらお知らせ下さい。

会費納入者昭和57年11月1日～昭和58年3月31日

昭和57年度分

31　秋山時夫・大神信勝・大坂貞子・加賀谷進二・川口洋史・私市小夜子　32　石毛和子・石橋義弘・小師国彦　33　内田朝子・徳竹伯夫・徳竹喜子・浜谷久子・森佳子・山本庸子　34　糸井健二・遠藤邦子・清水英雄　35　吉川洸・黒沢淑郎・佐野京子・杉崎敦子・樋口哲夫・吉田清行　36　安藤邦夫・後藤博子・塚本吉紀・平島啓文　37　下田富郎・住江英夫・中村雅則　38　鈴木郁子・諏訪邦子・速水登子・辻川照之・早川紀代子・宮本千世子　39　向井葵　40　池脇松秀・大林裕子・大屋敷孝雄・川神邦江・小瀬駿介・小瀬淑江・小林邦夫　41　青木貞夫・大河原明子・神薗晶子・小林由紀子・佐々木靖夫・時田真人・三浦真人　42　川島詔雄・林勉・本田泰子　43　大津賀睦子・折田耕四郎・笹本欽弥　44　佐藤裕子　45　有田三津代・井上礼子・太田正昭・笠松隆洋・木村桂子・曽根幸子・林田重邦・星野素子・森本薫・山崎晃　46　大坪邦夫・面矢立恵・鈴木至・鈴木一枝・田口博・長崎昭夫・山内慶一　47　小林啓子・鈴木直子・土井佳代・中村光一・野口和子・早藤知恵子・渡辺良一・　48　太田裕二・瀬端淑子・福原隆博・南川英明　49　大村悦子・坂倉礼子・宍戸美根子・鈴木敏夫・伴野和夫・矢萩敏子・横溝始　50　鵜飼玲子・小泉清美・佐藤淳一・竹原博司　51　石田制利・片桐秀明・小泉博・鈴木孝・樋口建・樋口弘子・山本祥人　52　青柳茜・伊藤親・柄沢祥子・川崎雅博・角南美津子・立山京子・田中容子・長沢京子・長瀬健市・野口博・原島良一　53　上田忠司・笠原義正・田中喜幸・萩本明恒・藤掛正明・藤掛裕子　54　上浜洋子・大橋智之・遠田貞夫・鎌田久穂・佐々木雅子・白川浩司・竹下文明・田辺浩二・古山陽一・牧野宏・和田恵美　55　沖昭子・風間英美・川口加奈子・芹川泰造・竹之下公美子・辻本修・藤本康嗣・牧野俊猛・森本宏・山崎健　56　新井滝美・川崎由美子・佐野祥子・島田佐和子・高沢克子・平間信行・湯浅多美代　57　六川邦明

以上150名

昭和57・58年度分

31　黒田幸一・丸岡昭一・吉村恭子　32　佐藤壮治・山下登　33　根岸純子・福田静江　34　池戸京二・大島芳郎・平島宏　35　佐藤敏治　36　宇佐美快昭・小泉英樹・福田福男　37　木村和子　38　大後正子・田原和子　39　長田皇紀夫・河野淑・末吉祥子・広瀬慶子・福井紀子　41　中山涼子　45　道祖土勝彦　46　金子和夫・坂口悦子・辻井喜彦・福田稔　47　石井康子・佐々木貴子・松本千代子・水谷告　49　加藤隆子・坂田谷加代子・本田佳子　50　大蔵秀喜・山下清和　52　矢口澄江　53　内山隆・沓沢真理子　54　北原真実・松島利恵子・三浦安寿・三浦良江　55　杉山順・橋津雅宏　56　富永博之・細井美江

以上48名

昭和57～59年度分

33　金光継道・鈴木聡明　35　碓井貞弘　37　吉岡武弘　40　太田健三・近藤千代子　47　武井康子　48　鈴木真知子　49　坂本親嗣・鈴木安都子　50　玉木恵子　51　永田叔久　55　倉田真理

以上13名

昭和57～60年度分

35　鈴木京子　55　村山充

以上2名

昭和57～61年度分

31　大林温・小野哲司・陶山順子・森山芳昭・横林豊子　32　河田柏・斎藤実・平栄・冨田修・藤井篤範　33　稲垣利治・遠藤けい・佐藤フク子　34　奥村時雨・妹尾昇・三原治子　35　西山宏　36　上原敏子・坂本光枝・志村佳之・長谷川生子・若菜茂二　37　須賀文代　38　伊藤益宏・小倉允子・栗原道子・豊島清磨　39　北澄潤子・小島三千代・杉野三郎・竹内節子・塚本修也・長沼邑子　40　高橋捷泰　41　伊藤祐子・上村浩子・関根和子・松下孝子　42　下田祥三　43　仁木亨夫　44　伊東孝・小金井佳世子・高瀬陽市郎・高林克行　45　石井久夫・栗田久子・鎗田一子　46　山田陽・吉田雅子　47　金岩孝夫・神名照幸・関けい子・名塚登美子　48　五十嵐明・竹内一雅・安田勝紀・山根典子　49　小林康泰・鈴木雅富・槇枝博文　50　大久保千春・松尾勲　51　熊谷泰二・江頭吉子・高田暢子・内藤猛・松浦晃　52　伊藤芳久・上田貴久子・小花隆・崎山友子・桜井令子・鈴木公子・矢作恵　53　杉山裕茂・松島信行・松本修・吉野達規　54　大塚一記・岡山得秀・君島真知子・窯田みどり・佐藤芳久・増田修也・増田留美子・吉永佐代子　55　石綿仁・梅沢芳史・萩野由加利・貞政恵子・南雲恵子・野口昭司・弓北智子　56　御蘭生隆雄　57　遠山立子

以上95名

昭和57～62年度分

44　早川忠男　51　中島康明

以上2名

昭和57～66年度分

38　藤井武　40　山田修稔　53　笠原義正

以上3名

会員納入者昭和58年4月1日～昭和58年11月14日

昭和58年度分

31　伊藤博・岡村信・神保恵美子・戸塚淳逸・伏田英雄　32　石渡康保・川口愛子・鶴田実・野村博子・松永泰子・松本忠士・箕浦英子・若松佳子　33　大川規一郎・金子佐和子・河島智・佐藤雅子・須藤ひさ子・達谷窟庸介・徳竹伯夫・徳竹喜子・根岸純子・藤野睦夫・山田愛子・山本庸子　34　石川栄一・木村清・阪本一彦・笹野英雄・島峯望彦・高梨久美子・高橋周七・橋本都　35　有沢宗久・斉藤文夫・杉崎敦子・鈴木重文・高崎美枝・豊田亮三・波多和人・吉川郁子・吉村衛　36　岩瀬光江・江花恭子・景山洋子・栗原武久・小林和子・小山登志江・後藤博子・鈴木純子・玉田輝己・張煥典・松島章浩　37　一色捷一・井上康子・川生洋子・寺地啓子・中居慶一・二川博子・峰島高子・渡辺健一　38　大野比奈子・高野静子・高松田鶴子・平井紀一・前田圭一・宮本千世子　39　金子幹宏・河野淑・末永温彬・広木豊憲・広瀬慶子・村瀬紀芳　40　秋元敦信・榎本英機・佐藤富子・佐藤良夫・豊田富士子・平井清作・牧野弘子　41　加藤一枝・塚本昭次郎・時田真人・長谷川寿男・畑里子・藤川睦子　42　岩下幸枝・新仏賢明・田矢美代・森田近嬰　43　赤松俊明・石丸文子・大津賀睦子・小川賢三　44　内倉和雄・楠沢清・望月新一　45　市原キミ子・木村桂子・小須田利幸・柴田博・首藤雄次・月村正史・鳩具好枝・平川雅子・藤谷典子　46　酒井秀量・佐藤光孝・渋谷正・成川秀隆・山内ヒロ子・和気成・渡辺幸枝　47　大石成子・工藤隆・楜沢美知子・小林啓子・三東恵利・神宮まゆみ・鈴木ひろみ・玉木すみ子・松沢克次・馬淵哲・宮本俊男・矢野間道明・渡辺良一　48　青木豊美・伊東秀子・井上節子・加藤裕・樺島順一郎・斉藤好広・道祖土隆子・佐々木てい子・鈴木美知代・中嶋徳博・中野幸子・宮宇地裕美・柏村豊子・横田友子・井上佳江　49　石川三千秋・上田春子・加古順子・香坂瑞代・斎藤晴美・伴野和夫・並木典子・藤田敬子・松永直樹・向井周子　50　小池勝也・清水祐子・竹内政子・土井正道・三浦勇一郎　51　飯塚一彦・池林マリ子・唐沢佳孝・高田義朗・出口千佐・本橋重康・森田哲生　52　今別府かおる・大森憲珠・小柴歳一・小谷正・高畠亨・田中容子・坪田圭子・友松茂喜・豊田道彦・長沢京子・戎郁世・山口文恵・山田洋・吉田愛作　53　伊藤明子・高橋光枝・西野みゆき・細川みゆき・三宅宗晴・渡辺操　54　青柳まゆみ・上浜正・大橋教子・小島和義・小島貴子・近藤純江・霜山昌弘・長塩義章・名取章夫・三浦安寿・三浦良江・三橋歩・村田由美・山口明　55　梅津博之・梯弘子・加藤彰裕・楠田容子・是永育雄・田中香代子・白花勝・関晶子・高山哲・田中淳一・戸叶素美　56　飯塚智子・井熊一宏・大賀真司・大野扶美子・小池昌子・小森谷友宏・伊藤美智子・加藤智由紀・八木千恵子　57　大崎匠・笠原英美・坂下美佐緒・坂本直隆・富井純一郎・長張孝子・森秀夫　58　石井一弘・石森公雄・市橋淳・伊藤哲雄・伊藤宏達・伊藤由美・今関広一・今西英樹・上原早苗・宇田川幸男・大木朗・興津新二・小田切智子・小野沢寿彦・春日井照夫・加藤一郎・金子明啓・川内智子・金城恵理子・小勝裕子・斎藤義数・佐藤明・柴田智子・島崎幸弘・島田裕子・須賀智代・杉浦貞美・園部とも子・高田かおる・高野雄一・田中秀美・戸張さゆり・冨田紀子・中村則弘・中村光利・長井一彦・長島誠・成田憲治・長谷川明理・速水浩泉・久田真理子・平沢和彦・広田育子・藤谷憲一・古沢寿男・誉田治義・前田国信・牧内宏明・増子裕美・松下直子・松本智津子・三浦恵吾・三ッ林彰子・宮田俊子・宮本まり子・柳沢麻里・山田安基子・山本正明・吉川昭彦・吉田ひろみ

以上284名

昭和58・59年度分

33　山本祐子　34　有本亨・加藤小石・富塚隆　38　実松昌汎　39　津田百合子・米本富美子　41　岩瀬広　45　土肥栞　46　上甲れい子　47　大河原綾子・高杉晶子　48　田中達夫・土橋敬子　52　吉田庸子　54　小川敦・塩之入盾和・福原清博　55　石田恵子・喜多志津子・福原雅子　58　刑部万里・副島美紀・樋口亨

以上24名

昭和58～60年度分

32　麻生惇子　35　小松寛　41　藤田菅雄　47　大河原義重・寺島正美・二俣哲夫　48　安川憲　50　吉野弘一　52　矢島康男・安川阿良里　53　馬場温

以上11名

昭和58～61年度分

44　相見光郎　58　井上佳子・小長谷栄一

以上3名

昭和58～62年度分

31　斉藤庸子　32　五十嵐尚美　33　大久保令子・恩田正昭・大庭一郎・金子年男　34　青山静子　36　小林昌子・平林牧三　37　会田洋子・小幡強・松山歌子・小久保光昭　39　菱川亜子・松原以登子　40　木村由美子・牧村瑞恵　41　松下孝子　42　古池輝久・星隆志　45　草間貞・牧村紀子　48　大川成司　52　沢木康平　53　石井誠一・高石きく江　54　横井泉　55　鈴木ゆみ子・藤井靖子・弓北智子　57　碓氷洋子　58　青木美恵子・秋本佳秀・網仲信男・荒巻継代・安藤敏・安藤美紀・飯川和智・飯田好一・五十嵐令子・池田万里子・石川隆志・石塚規子・一之瀬裕子・伊藤聡子・井上泰三・今井順子・上野基樹・後田孝・遠藤正浩・大石浩子・大内文伸・大野由美子・遠藤明美・加藤祐二・川上千秋・川崎かおり・川島昌美・川瀬秀一・菅野陽子・菊地優子・小棚木荒

太・小林久美子・斉藤夏美・斉藤祐子・作左部しのぶ・桜井智恵・佐々木真弓・佐藤雅典・島和子・島田弘子・下島弘子・信賀久美・新谷真紀・神保恵美子・菅野敬市・鈴木恵子・鈴木幸司・鈴木初美・角藤恵美・高塩健一・高島康浩・高橋あけみ・高橋省三・高橋智子・高山京子・滝原明美・田代菜穂子・立川尚子・田中すみれ・田原章子・玉木弘子・田村利生・近石裕子・千原昇・遠山陽子・中川幸雄・長久保節子・長須賀清美・長峰富士夫・二田貞恵・野口千晶・野口知子・長谷川隆子・長谷部幸子・花見圭子・馬場尚子・飛田明美・蛭田みゆき・福田二三代・福本恵子・船田径子・古川揚子・本多修・前田行俊・真塩和美・松戸勝浩・丸山薫・三宅治子・矢嶋正子・安武久美子・山川喜義・山田郁子・山田孝志・山田道子・吉村直人・渡鍋恭子
以上127名

昭和58～63年度分

58　春日井照夫
以上１名

御　案　内

昭和59年度入試期日および科目が決まる

昭和59年度入試期日および入試科目が決まり、入試事務室より発表された。関係学部の抜粋も掲げました。

なお、この他に理工学部は、小論文、生産工学部では作文課題が課せられ、短大各科では面接試験が行われる。受験料は、理工、生産工、工学部が23,000円、短大は、20,000円。入試関係についての照会は、（〒102）東京都千代田区九段南4-8-24日本大学入試事務室へ。入学案内書は実費800円
（郵送の場合1150円）

昭和59年度入試期日および科目

学　部	入試期日	入　試　科　目
理工学部(全学科)	昭和59年２月11日	数　学：数学Ⅰ、ⅡB、Ⅲ
生産工学部(〃)	２月９日	理　科：「物理Ⅰ、Ⅱ」、「化学Ⅰ、Ⅱ」の２科目から１科目選択
工学部(〃)	２月16日	
短期大学部(建設、工業技術、応用化学)	３月７日	外国語：英語B

後期行事日程

行　事	理工学部(駿河台、習志野)	短期大学部習志野校舎
冬期休暇	12月21日(水)～59年１月10日(火)	12月21日(水)～59年１月10日(火)
後期授業終了	１月19日(木)	１月18日(火)
後期試験開始	１月21日(土)	１月20日(金)
卒業発表	３月２日(金)	２月24日(金)
卒業式	３月25日(日)	３月25日(日)

編集後記

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、桜薬会会員の皆様の御健康と御活躍をお祈りいたします。

第５号から学部昇格を前提とした“新生　日本大学薬学部に望む”の連載を続けて来ましたが本号ではお休みいたしました。まだまだ続けるつもりでおります。今年の薬学科の入学試験案内には「人類の健康管理に貢献する有能な薬剤師の育成」という目標が掲げております。薬学部に昇格してもこの目標に追いつき、追いこすには、桜薬会会員皆様方の厳しい目も必要かと思います。

本会報は、校友の皆さんが自由に投稿出来るように特に規定は設けておりませんので、先輩諸兄姉の御意見をお寄せ下さることをお待ちしております。

発行日　昭和59年２月８日
編集人　日本大学桜薬会事業委員会
発行人　日本大学桜薬会会長　高仲　正
印刷所　白洋印刷KK　電話東京352-5631・9665
発行所　〒101　東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部薬学科内
電話　東京293-3201　振替　東京2-50025
写　植　株式会社電算プロセス